



カルガモ

かわはく No.63

CONTENTS

平成30年度特別展案内「カモ・鴨 ～見・知・獲・食～」	2
開催案内：スロープ展 特別展サテライト展示「カモを見に行こう！」	4
開催報告：体験型ワークショップ「楊枝でタラヨウの葉に字や絵をかいてみよう！」	4
開催報告：共催展示「荒川上流部改修100周年記念展示」	5
共催イベント「荒川第一調節池 関連施設見学会」	5
開催報告：作って楽しんで参加しよう「職人さんに学んで作る～自分だけの工芸品～」	6
「スポーツしよう～ラグビー・東京2020大会を楽しもう～」	6
学芸員コラム かわはく夏のレファレンス紹介	7
大水車改修工事レポート - その2 -	7
イベント情報コーナー12・1・2・3月	8



平成30年度特別展案内

「カモ・鴨 ～見・知・獲・食～」

平成30年11月3日(土)～平成31年1月6日(日)

11月3日(土・祝)より、平成30年度特別展「カモ・鴨 ～見・知・獲・食～」を開催しています。

カモ類は代表的な冬の渡り鳥として広く知られ、日本国内では56種のカモ類が記録されています。そして埼玉県では31種が確認されています。カモ類を代表するマガモ、オフィス街の子育てでおなじみのカルガモなど、カモ類は多くの人々に親しまれている鳥類といえます。本展示では広く知られている種だけでなく、めったに目にすることのできない種まで、様々なカモ類を標本などで紹介し、渡りの生活史なども紹介しました。

また、カモ類は古くから狩猟の対象とされ、江戸期に盛んに行われた鷹狩りでも主要な獲物でした。さらに、日本国内各地で網などを使った伝統的なカモ猟が行われていました。しかしながら時代とともに衰退し、現代では珍しくなりましたが、越谷市の宮内庁埼玉鴨場では叉手網(さであみ)を用いた独特の鴨猟が保存され、行われています。

また、カモ類は縄文時代から食べられていたことが知られ、日本では古くから鴨を身近な食材として賞味し、様々な料理が生み出されてきました。しかし、現代の一般家庭では、鴨料理は日常の料理とは言い難く、時代の変化とともに大きく変わった一つといえるでしょう。

本展示を通じて、カモ類の「見る・知る・獲る・食う」をご覧いただければ幸いです。

【特別展の主なみどころ】

・埼玉県で記録されたカモ類を紹介

「埼玉カモ図鑑」として31種のカモ類を紹介し、うち18種は剥製標本で展示しました。また、カモ類が食する植物、魚類、貝類なども標本で紹介しました。

・カモの自然史

カモ類は代表的な冬の渡り鳥として知られてい

ます。長年の研究で判明した渡りのルートや、使われている機器類を紹介しました。また、国内で繁殖するカルガモを例に、ヒナ(標本)、巢・卵(レプリカ)を紹介し、天敵のイタチ、カラス、ヘビを標本で紹介しました。

・カモの家禽化と利用

カモ類はアヒル・ガチョウなどとして家禽化され、古くから人々に利用されてきました。主な目的は食用や採卵ですが、愛玩や羽毛採取などにも用いられてきました。羽根ペンなどの用具とともに紹介しました。

・鷹狩りと鴨猟

江戸期に盛んに行われた鷹狩りは、埼玉県東部にも狩場がありました。関連する古文書や古地図を実物資料で紹介し、鷹匠の専用用具や鷹狩りに使われたオオタカ、ハヤブサも剥製で紹介しました。

また、日本各地で伝えられ、現在でも保存されている鴨を対象とした古式猟法を紹介しました。石川県加賀市、宮崎市佐土原町の「投げ網猟」は映像も紹介しました。

・宮内庁埼玉鴨場と埼玉県の鴨猟

越谷市大林の元荒川左岸に、宮内庁埼玉鴨場が明治41年(1908)に、皇族の遊猟あるいは外国からの貴賓や政府高官の接待猟を目的として開設されました。本展示では、埼玉鴨場で使われている鷹匠の衣装、叉手網などを実物資料で紹介しました。

埼玉県内でも南部の低湿地では網猟が行われていました。猟場の減少などで今日では見ることができませんが、カモアミやそれらを作るときに使われた竹製の編み針を実物資料で展示しました。

・遺跡から出土されたカモ骨や鴨の食文化

カモ類は縄文時代から食されてきましたが、埼玉県でも5つの遺跡からカモの骨が出土しています。



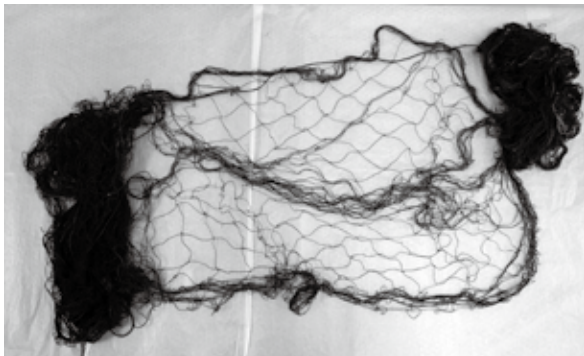
そのうち、加須市長竹遺跡出土の上腕骨と左上腕骨を実物資料で紹介しました。

南北朝時代末期から室町時代前期(応永年間1394～1428)には、食物としてキジ・ガン・カモ・クグイ(ハクチョウ)などがあげられ、狩猟で捕獲された野鳥が食べられていました。江戸期には多くの種類の野鳥を、様々な料理法で食べていたことが分かっています。中でもガン・カモ類がよく利用されていました。

鴨は現在一般家庭の料理で使われる食材とは言いがたいですが、鴨鍋や鴨南蛮など、代表的な鴨料理をレプリカで紹介しました。



電波発信機が装着されたオナガガモ
(写真：奈良義之氏 2007年3月26日 深谷市本田にて撮影)



さいたま市で使用されていたカモアミ
(埼玉県立歴史と民俗の博物館所蔵)



埼玉鴨場の鴨猟

【イベント情報】

放鷹観察会(終了しました)

講師：大橋邦啓氏(獣医師・放鷹義塾代表)ほか
実施日：平成30年11月11日(日) 11:00～12:00
場所：川の博物館 ファミリー広場
定員：なし(事前申込不要)
費用：無料

鷹匠の技を実演。



放鷹観察会の様子

カモ観察会

講師：島田 勉氏

((公財)埼玉県生態系保護協会評議委員)

実施日：1回目 平成30年12月10日(月)

2回目 平成31年1月5日(土)

時刻：10:30～12:00

場所：行田市古代蓮の里公園および行田浄水場

定員：各回20名(要申込)

費用：200円(保険料+資料代)

渡りのカモ類を観察し、その見分け方を学びます。

鴨料理の提供

当館の食堂では、合鴨を使った鴨肉鍋焼きうどんを展示期間中に提供します。



鴨肉鍋焼きうどん

(研究交流部 藤田宏之・

自然の博物館 環境担当 中村修美)



開催案内

特別展サテライト展示「カモを見に行こう！」

開催期間:平成30年10月16日(火)~平成31年2月3日(日)
会場:第1展示室 スロープ展示

10月16日(火)より、スロープ展「カモを見に行こう！」を開催しています。本展示は特別展「カモ・鴨 ~見・知・獲・食~」のサテライト展示として、埼玉県内のカモ類の飛来地に注目しました。

カモ類は河川や水路、田園地帯の池沼や湖で観察できるだけでなく、身近な水辺である都市公園の池でも観察できます。埼玉県内の身近にカモ類が観察できるスポット49地点を地図や写真で紹介しました。代表的な飛来地として、特別展開連イベントで観察会を開催する行田市の古代蓮の里公園などが挙げられます。

これから本格化するカモの観察シーズンに向けて、観察するための道具であるフィールドスコープや、カモを調べるための色々な図鑑や、カモの

生態調査報告資料なども実物資料で展示しました。また、本展示と併せて「埼玉県カモ観察マップ」も発行しました。この冬はぜひ野外でカモを観察してみませんか？



マガモ

(研究交流部 藤田宏之・
自然の博物館 環境担当 中村修美)

開催報告

体験型ワークショップ

「楊枝でタラヨウの葉に字や絵をかいてみよう！」

平成30年9月9日(日)・9月23日(日)

9月9日の日曜日、タラヨウの葉を使っての不思議体験イベント「楊枝でタラヨウの葉に字や絵をかいてみよう！」を開催しました。タラヨウの葉は「はがき」の名前のもとになった木と言われ「郵便局の木」として知られています。

県の農業技術研究センターの協力をいただき、タラヨウの葉のついた枝を山のように用意してお客さまの来場を待ちました。参加された子どもたちは、「楊枝や竹ひご」でかいたイラストや字が、十数秒で茶色く浮き出てくる不思議な現象に興味津々。中高年のお客さまのなかには、「子どもの頃よく遊んだなぁ〜」と懐かしそうに、お孫さんとの会話を楽しんでいる方も…。

「敬老の日のサプライズになるね…」と、子どもたちに祖父母あてのメッセージを書かせたり、「郵送するにはどうすればいいの…」とご質問をいただいたりと、親御さんにも興味を持っていただいた企画になりました。

なかには、「なぜ、字が浮き出るの?」と質問する子や、「葉肉の組織が壊れて茶色くなるんだ。違う木の葉だけとお経を書いたりもしていたんだよ…」と親子の会話も聞こえました。



イベントの様子

ひと昔前には、自然に親しみ、自然を相手に遊んで得ていた「体験」が、最近はなかなか得にくくなってしまいました。子どもたちが自然の不思議を体験できるワークショップや、親子で楽しめるワークショップをこれからも展開したいと思います。

「見て・知って・やってみる」自然発見ができる、楽しい体験型ワークショップを企画・実施していきます。

(事業戦略室 萩原幸仁)



開催報告

共催展示「荒川上流部改修100周年記念展示」

開催期間:平成30年9月22日(土)~平成30年10月14日(日)
会場:第2展示室

9月22日(土)から10月14日(日)まで、国土交通省 荒川上流河川事務所との共催で、共催展示「荒川上流部改修100周年記念展示」を開催しました。

今年、平成30年(2018)は、1,000年に1度の大洪水、「明治43年の大洪水」発生後に立案された、荒川上流部改修工事が着工してから、ちょうど100年目の節目の年にあたります。この節目の年に、記念展示を開催しました。

荒川上流部改修工事は、大正18年(1918)~昭和29年(1954)まで、36年の歳月をかけて行われた大工事です。この大工事を経て、皆さんがよく知っている、現在の荒川の姿が誕生したといっても過言ではありません。

展示は、本年度荒川流域の各市町村を巡って開催されている巡回パネル展で使用しているパネルを展示したコーナーをはじめ、当館所蔵の関連資料を展示したコーナー、そして荒川上流河川事務所で保管されている上流部改修工事にまつわる資料を展示したコーナー等で構成しました。

今回展示させていただいた資料は、上流部改修工事に関する設計書や、測量図面、改修工事の原

計画を記した横断面図など、どれもこれも貴重な資料ばかりで、展示を担当させていただいた私自身も大変勉強になりました。

また改修工事に関する資料に加えて、カスリーン台風の際に堤防が決壊した熊谷市久下の復旧工事に関する資料もあわせて展示いたしました。展示した資料は、来館者の方にこれまで何度も説明した内容ですが、今回はじめて堤防がどの程度決壊したのか、展示を担当させていただいたことで、より詳しく知ることができました。

荒川上流河川事務所との今回の共催展示。貴重な資料に目を通すことができ、担当者自身が大変勉強になった展示でした。最後になりますが、展示開催にあたりご協力いただきました関係各位に深く感謝し、開催報告にかえさせていただきます。



展示室の様子

共催イベント「荒川第一調節池 関連施設見学会」

開催日:平成30年10月6日(土)

共催展示関連イベントとして、荒川第一調節池関連施設の見学会を開催しました。

荒川第一調節池は、昭和48年(1973)から平成16年(2004)にかけて整備された巨大な調節池で、調節池内には貯水池である「彩湖」も整備されています。上流部改修工事完工後に整備された、上流部のダム群と並んで、現在の荒川流域にとって、なくてはならない施設の1つです。

今回の見学会では、この広大な荒川第一調節池が非常時(河川増水時)にどんな施設がどのように稼働するのかを参加者の方に知ってもらえるように、普段は見学することができない施設を中心に、荒川上流河川事務所の職員の方の引率・説明の下で見学させていただきました。見学した施設は、さくらそう水門や、貯水池機場、越流堤など、どれも普段は見学できない施設ばかりであり、また今

回は特別に荒川第一調節池全体の遠隔コントロールを行っている、荒川上流河川事務所 西浦和出張所の内部もあわせて見学させていただきました。

巨大な調節池がどのように制御され私たちの生活が守られているのか、また同時に貯水池である彩湖がどのように制御されて水道水の供給が保たれているのか、今回の見学会を通じて参加者の方により深く理解していただけたのではないかと思います。



見学会の様子

(研究交流部 羽田武朗)



開催報告

作って楽しんで参加しよう 「職人さんに学んで作る～自分だけの工芸品～」 「スポーツしよう～ラグビー・東京2020大会を楽しもう～」

平成30年9月15日(土)・16日(日)・17日(月・祝)

その道のプロと一緒に楽しみながら学んで体験するイベントを行いました。

9月15日(土)と16日(日)の二日間、畳を作る職人さんや、水引細工を作る職人さんのほか、革細工や木工おもちゃの職人さんなど10人の職人さんに来ていただいて、指導を受けながらそれぞれの作品を作りました。(写真・・)

なかでもミニ畳づくりはとても好評でした。体験用に1辺20cmの正方形にカットされた畳床に、イグサの畳表をホチキスのような工具を使ってとめる作業は力が必要で、皆さん苦労していました。でも、出来上がった畳を見て、イグサのいい香りに「いいにおい～」と喜んで持って帰る姿が見られました。

9月17日(月・祝)には、ARUKAS QUEEN、立正大学ラグビー部女子の選手と一緒にラグビーを体験しました。(写真・)

秋晴れの中、芝生の広がるファミリー広場でラグビーボールをパスしたり、選手からトライを奪ったりと、ラグビーに親しみました。ラグビーボールに触るのも初めてで、最初は緊張していた子ども

たちでしたが、選手たちのやさしく爽やかな笑顔にすぐ打ち解けて楽しそうにラグビーを体験していました。(広報担当 若目田葉子)

東京2020を楽しむイベントとして「ブータンを知ろう」を開催しました。かわはくのある寄居町は、ブータン陸上選手のキャンプ地になります。そこで、9月10～14日まで寄居町と共催で町役場にてブータン紹介の展示を行い、かわはくでは15～17日にブータン紹介コーナーを設け、17日にはブータンの民族衣装を試着して写真を撮るイベントを行いました。日本ブータン友好協会の協力により、大人・子供用を男女別に用意して、来館の方に着ていただくというものでした。(写真)

「ブータンって、どこにあるの?」という方も多く、ブータンがインドと中国の間、ネパールの東方にあることを示しつつ、ブータンがインド平原の低標高からヒマラヤ山脈に続く山岳国家であり、多様な自然や文化を有することなどを紹介しました。同じアジアの国の民族衣装は皆さんとてもよくお似合いでした。(研究交流部 森圭子)



写真



写真



写真



写真



写真



写真



学芸員コラム

かわはく夏のレファレンス紹介

当館では、学芸員が皆様の質問にお答えするレファレンスを行っています。内容は、川に関係することで、民俗・地理・歴史・生き物・土壌 等、様々な分野に渡っています。今回は、毎年の夏休みに質問が多い「川原の石」2つをご紹介します。



かわせみ河原の様子

かわせみ河原で見つかる石の種類

博物館から歩いて10分程度の場所にかわせみ河原があります。河原には、荒川によって上流から運ばれてきた石が多くあります。肉眼で名前を付けることができる代表的な石は、閃緑岩・砂岩・

泥岩・礫岩・石灰岩・チャート・結晶片岩・ホルンフェルス・緑色岩・蛇紋岩・蛇灰岩（順不同）です。これらは色・形・模様・手ざわりがそれぞれ異なり、特徴を覚えることで判別できます。

荒川の河原で見つけられる「めずらしい石」

夏休みの宿題で「めずらしい石」を探してくるよういわれたがわからないといった方が、毎年いらっしゃいます。私が紹介する石は2つです。

1つ目は、小さな穴がある白い石英脈です。穴の中をじっくり見ると、たまに、とんがっている小さな水晶があります。2つ目はキラキラしたイチゴパイのように見える、ピンク色の紅簾石片岩です。どちらもかわせみ河原では数が少ないですが、石探し初心者でも見つけることができます。

他にも、自由研究のために採取した岩石の名前調べ、埼玉県周辺で花崗岩や玄武岩が見られる場所（国会議事堂と富士塚を紹介）と、たくさんの質問をいただきました。なかには、答えることが難しい内容もあります。日々勉強です。

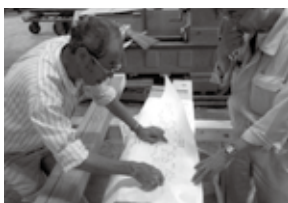
12月以降は「石」のイベントを順次行います。皆様のご参加をお待ちしています。

（研究交流部 高橋美織）

大水車改修工事レポート - その2 -

前回のヒノキ伐採から約3ヵ月以上乾燥させて加工できる状態まで来ました。

角材や平板に寸法を測りながら墨入れ（線を引く）作業を一つ一つ行い、切断や穴開け、加工などを丁寧に行い一つの部品として出来上がります。この作業には、設計者の図面と墨入れする棟梁の経験が無ければ正確な部品が出来ず、組み立てている途中に部品の手直しが必要になります。



設計者と棟梁が打合せ



棟梁が図面に合わせて墨入れ

加工するには、全て手作業で同じ部品をいくつも作らなければなりません。輪板64枚、水受け板64枚、ゴコウ（角柱）64本、繋ぎ梁と鼻栓などは128本も必要になります。



棟梁の指示で穴開け



棟梁が図面通りか確認

この木工材が出来上がると仮組をします。次回のレポートもお楽しみにしてください。

（経営管理部 高石勉）

かわはくで学ぼう!!

イベント情報コーナー

12月

10/16/火~2019/2/3/日

スロープ展「カモを見に行こう!」

11/3/土・祝~2019/1/6/日

特別展「カモ・鴨 ~見・知・獲・食~」

11/3/土・祝~2019/1/6/日

特別展開連イベント「鴨を食べてみよう」

費用: 650円(食事代)

提供場所: かわはく食堂 メニュー: 鴨肉鍋焼きうどん

2/日

かわはく子ども交流員

費用: 300円(材料費) 定員: 10名

対象: 4歳~12歳 時間10:00~12:00

内容: かわはく交流員のお仕事体験をします。

2/日

かわはくであそぼう・まなぼう 世界土壌デー記念「土のすまを調べよう!」

時間: 13:30~15:30

内容: 簡単な実験を行って、ふかふかな土の秘密をさがります

7/金~2019/1/14/月・祝

かわはく冬のイルミネーション

時間: 夕方~平日17:30まで、土日祝18:00まで。

内容: かわはくを素敵にライトアップ。

7/金-9/日

障がい者ウィークイベント

時間: 10:00~15:00

8/土

かわはく体験教室「凧づくり」

時間: 13:00~15:30

費用: 600円(材料費) 定員: 20名

内容: 竹の骨と和紙を使って和凧を作ります。

10/月

特別展開連イベント「カモ観察会」(講師: 島田勉氏)

時間: 10:30~12:00

費用: 100円(保険料) 定員: 20名

内容: 渡りでやってくるカモ類の観察をします。

16/日

かわはく研究室~川・自然・歴史~「川の石を割ってみよう」

時間: 13:30~15:30

内容: ハンマーを使って石を割る体験ができます。
石がなくなり次第終了。

2月

2/5/火~

スロープ展「玉淀の動植物」

2/3/日

かわはくであそぼう・まなぼう「かわはくで豆まき」

時間: 11:00~ 14:30~ 豆まきの時間です。

内容: カワシロウと一緒に節分の豆まきをします。

9/土

荒川ゼミナール いろんな荒川を見に行こう

「荒川放水路を歩く3~荒川放水路の開削工事で分断された川を見に行こう~」

時間: 10:00~16:00(予定)

費用: 300円(保険料・資料代) 定員: 30名

内容: 荒川放水路の開削工事で分断された川を見に行きます。

16/土

かわはく体験教室「河原の石図鑑を作ろう」

時間: 13:30~15:30

費用: 300円(材料費・保険料) 定員: 20名

内容: かわせみ河原で石を集めて石の実物標本を作ります。

17/日

かわはく研究室~川・自然・歴史~

「川のはたらき・地形・歴史を学ぼう!」

時間: 10:00~11:00 11:00~12:00

13:30~14:30 14:30~15:30

内容: 学芸員と一緒に周辺の地形や川のはたらき、歴史について学びます。

3月

3/9/土~5/12/日

企画展「玉淀今昔物語-田山花袋が絶賛した深谷美-」

3/9/土・3/10/日

防災を知ろう、作ろう、体験しよう

(協力: 埼玉県防災学習センター そな-え)

時間: 10:30~15:30

内容: 起震車体験や簡単な防災グッズ作りなどを行います。

17/日

かわはく研究室~川・自然・歴史~

「小さな石のつぶを調べよう」

時間: 13:30~15:30

内容: 石は何からできているのか観察します。

23/土

荒川ゼミナール 川を知るウォーキング

「荒川の堤防探検4 荒川の堤防の終わりに見に行こう」

時間: 10:00~16:00(予定)

費用: 300円(保険料・資料代) 定員: 20名

内容: 荒川の堤防の終わりはどんな場所なのか見学に行きます。

24/日

かわはくであそぼう・まなぼう「科学あそび」

時間: 13:30~15:30

内容: 液体窒素を使った実験などを行います。

29/金

企画展開連イベント「玉淀散策と鮎飯」

時間: 未定

費用: 5000円(食事代・資料代・保険料) 定員: 20名

内容: 文人たちの足跡を追って散策したのち、割烹旅館「京亭」の建物を見学しつつ鮎飯を味わいます。さらに鉢形城跡に立ち寄り、城跡に咲く江戸彼岸桜の大木を鑑賞します。

30/土

かわはく体験教室「これから出てくる身近なケケンな生きもの」

時間: 13:30~15:30

内容: 生き物が活発になる季節を前にして、気をつけたい危険な生き物や毒のある植物などを紹介します。

2019年

1月

1/26/土~2/17/日

共催展示「平成30年度荒川図画コンクール」

5/土

特別展開連イベント「カモ観察会」(講師: 島田勉氏)

時間: 10:30~12:00

費用: 100円(保険料) 定員: 20名

内容: 渡りでやってくるカモ類の観察をします。

5/土

かわはく子ども交流員

費用: 300円(材料費) 定員: 10名

対象: 4歳~12歳 時間10:00~12:00

6/日

かわはくであそぼう・まなぼう「お正月あそび」

時間: 10:00~12:00 13:00~15:00

内容: お正月あそびを体験できるコーナーを作ります。

19/土

かわはく体験教室「土を使ったアート作品づくり」

時間: 10:30~11:30 13:30~14:30

費用: 100円(材料費) 定員: 各回15名

内容: 土を材料に作品を作ります。

20/日

かわはく研究室~川・自然・歴史~「チリメンモンスターをさがせ」

時間: 13:30~15:30

内容: しらす(ちりめんじゃこ)の中に混じっているエビやカニなどを探します。

ホームページでも紹介しています!

<http://www.river-museum.jp/>

【お願い】 行事は都合により変更になることもあります。ご了承下さい。 印のついた行事は事前申込みが必要です。費用に「保険料」が含まれるイベントの申込締切日は、各イベントの開催日の前日(午前中)までです。 定員になり次第締め切ります。 川の情報もお寄せ下さい。

編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地

TEL / 048-581-8739(研究交流部) FAX / 048-581-7332

Eメール / web-master@river-museum.jp/

彩の国
埼玉県

2018年11月30日発行

